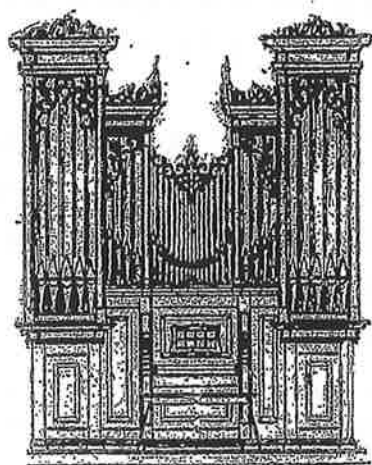


# パイプオルガンだより

vol. 4      オルガン完成号



日本キリスト教団 世田谷平安教会

発行 2013年6月30日

パイプオルガン委員会

委員長 鎌田由喜子

書記 荒井せつ子

会計 徳永 雪江

外部交渉 鈴木 由子

竹内 道子

広報 鎌田有由実

運命のオルガンが完成いたしました！

会堂建築と同時に設置されたかのような、まるで礼拝堂に溶け込むように、白く美しいパイプオルガンです。

オルガンケースの白をきめるため、マチュー・ガルニエ（兄）さんが何度も教会へ足を運び、色見本を作られ、教会にぴったりの白に決めて下さいました。

設置作業は、ボリス・ガルニエ（弟）さん、中山航介さん、志賀誠司（ジョージ）さんの3人が常駐され、作業が進められました。お仕事の合間には、オルガンについて色々と教えて下さいました。

まだ作業が始められて間もない頃、航介さんとお話をしていますと「自分たちは100年以上も長く使われる芸術品とも言われるオルガンを制作しています。たとえ自分の命が終わりを迎えてもオルガンは生き、ガルニエの技術を後世に伝える、という誇りを持って皆、この仕事をしています」と真っ直ぐな目でお話しされました。

この言葉を聞いた時、3年をかけてビルダー選びをし、そしてガルニエさんをお願いしたことに間違いはなかったと、確信いたしました。

数日後、ジョージさんともお話をする機会があり、イギリスの小さな村で100年以上前のオルガン修復作業をされている時、「当時のオルガン制作技術も学ぶことができました。また、同時に自分たちの技術もこうして残され、オルガンの命は引き継がれていきます。このような本物のオルガンが子どもの時から身近なものになり、この教会から、オルガンビルダーやオルガニストが育ってくるとこんな幸せな仕事はありません。」と白いメガネの奥から覗く優しい目で語られました。

整音作業が進められると、お父様のマルク・ガルニエさんがお見えになり、大きな背中を丸くしてオルガンを愛おしそうに弾かれていました。



礼拝堂から聴くその音はととても優しく、穏やかで、思わず奥様のエリザベスさんをおもいうかべてみたり、また、白いエレガントなオルガンが、両手を広げられている金澤公子先生のお姿と重なりました。

思わず、バルコニーに上がり、ボリスさんに、「オルガンに女性・男性があるならば、このオルガンは女性のような気がします。」と伝えましたところ、ボリスさんは「僕は、優しい紳士を目指していたのに、女性?!」と頭をひねってしまいました。「では、完成時にはどうなるでしょう」と笑っていました。

マチューさんは、「教会の中で、オルガンが3本の柱の1本になって欲しいと願っています。1本目は牧師先生、2本目は教会の会堂と教会員の皆様。3本目がオルガン。オルガンの音が皆様の祈りを深めるお手伝いができるよう、そして地域の皆様との交流に役立ち、子ども達の心の成長につながるよう、祈りをこめて制作しています」と話して下さいました。こうして、5月1日より始められた作業も6月7日、オルガンは完成されました。

集中力と根気のいる繊細な調律作業も終わり、フロントパイプが磨かれ、最後に鍵盤にオリーブ油が塗られている時、お父様マルクさんがいらっしやいました。指がオイルでベトベトになりながらオルガンを弾かれているお顔は、とても満足そうです。そこにボリスさんがみえると、一言「ビューティフル!」とおっしゃいました。その時のボリスさんは、少し照れ臭そうに、でも誇らしげにオルガンを見上げていらっしやいました。

この時、「このオルガンは、女性、男性を超え、ガルニエファミリーの愛のオルガンだ」と思いました。オルガンにより、ガルニエさんと私たち世田谷平安教会が神様のもと、ひとつの家族となりました。

9日、礼拝で初めてオルガンで奏樂をさせていただきました。

ガルニエ社のみなさまと共にささげられた礼拝は、完成されたばかりのオルガンの音が輝き、讃美の歌声も大きく響いてきます。

足が震えるような緊張と感激でした。

礼拝後、私たちオルガニストの憧れであるお母様、エリザベスさんより「ありがとう、とても素晴らしかったです」とお言葉を頂いた時、思わず、エリザベスさんの胸で涙が溢れてきました。

ボリスさんは、園舎から聞こえてくる子どもたちの歌声も、音作りの参考にされています。

オルガン委員のスペシャルアドバイザー河野先生は制作途中で、園児一人一人にオルガンに触れる時間を取って下さるビルダーは、とても珍しいです、とおっしゃっています。

こうして構想から25年、多くの方々の願いが実を結んだ運命のオルガンに出会え、今、教会は白い天使が羽根をひろげているような暖かな、美しいオルガンの響きに包まれています。

フランスで制作して下さった工房のみなさま、影で支えて下さった奥様方、そして、誠実で優しい紳士の皆様に心より感謝申し上げます。ガルニエ社の今後益々のご発展と神様の祝福を心よりお祈り申し上げます。

金澤公子先生が願われたように、次の世代を担う子どもたちへ音楽の可能性を広げ、皆様に長く愛されるパイプオルガンを目指し、オルガン委員・奏楽者一同、努力して参りたいと思います。

この日を迎えられましたことを神様に感謝いたします。

オルガン委員長 鎌田由喜子

\*河野和雄先生は2009年教会・幼稚園舎建築中の仮設園舎にてスクリーンを使用しての「オルガンのお話」をしてくださいました。以来、オルガン見学会への同行や、常に適切なアドバイスを下さり、世田谷平安教会のパイプオルガン導入と、オルガン委員会の支えとなって下さいました。

10月20日に予定しております、奉献音楽礼拝において奏楽をして下さる予定です。